第 24 回　中国の古典文明

1　中国文明の発生

・北の（　　）流域は、豊かな黄土地帯でアワなど雑穀の畑作に適していた。
・南の（　　）流域は、季節風の影響が強いため雨が多く稲作に適していた。
・人口の 90%以上は漢族（漢民族）だが、北方の草原・砂漠地帯で遊牧生活を送る人々や、東北部の森林地帯で狩猟・採集を営む人々もいた。

＜黄河流域（黄河文明）＞

★（　　）（前 5000 年ころ～前 3000 年ころ）
・黄河中流域に栄えた。明るい彩色文様の土器である（　　）を用い、豚・犬・鶏を家畜として使用した。
※半坡遺跡や姜寨遺跡に代表される。

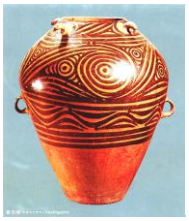
黄河
年間 16 億トンもの黄土を運ぶ黄河は、名前のとおり黄色である。古代からたびたび氾濫した。

★（　　）（前 3000 年ころ～前 2000 年ころ）
・黄河下流域に栄えた。城壁を持った都市も出現し、統治者の権力が増大した。
・黒色の磨研土器である（　　）や（　　）を用いた。西方から麦や羊が伝わり、牛や馬の家畜化や養蚕も始まった。
※鬲・鼎などの三足土器が多く作られた。

＜長江文明＞
・長江下流の（　　）では、前 5000 年ころの水田をともなう集落が発見されている。
→ここから日本に稲作技術が伝わったとされる。
・下流の良渚文化、中流の屈家嶺文化も知られる。

＜その他＞
★ 紅山文化（前 4000 年ころ～前 3000 年ころ）
・渤海に注ぐ遼河下流で栄えた新石器文化。
★（　　）（前 1600 年ころ～？）
・四川地方に成立し、青銅製の独特の仮面で知られる。

・竜山文化末期から、（　　）と呼ばれる集落や都市が形成された。
→城壁に囲まれた都市国家が登場し、各地の邑を従えて王朝が誕生した（王朝国家）。


彩文土器
起源に関しては不明な点も多いが、メソポタミア文明と何らかの関係があるのではないかと言われている。

三足土器の黒陶
黒陶は非常に薄く作られているため、発見者はエッグ=シェル（卵の殻）と呼んだ。その薄さは、0.5～1mm のものがあるほど。

三星堆文化の仮面
四川の三星堆文化では、殷とはまったく系統の違う青銅器が発見されている。
子安貝の黄金製品が発見されており、他地域との交流があったのは間違いない。

2　古代中国の王朝

・伝説上の帝王として、堯・舜・禹と呼ばれる帝王が存在したとされる。
　→黄河の治水に成功した禹が開いた（　　）が、中国最古の王朝とされる。
　※『史記』に記述がある。また、二里頭文化が夏王朝ではないかとの説がある。

☆（　　）　※自称は（　　）（前 1700 年ころ～前 1050 年ころ）

都…（　　）と呼ばれる遺跡（後期）　※現在の河南省安陽市。

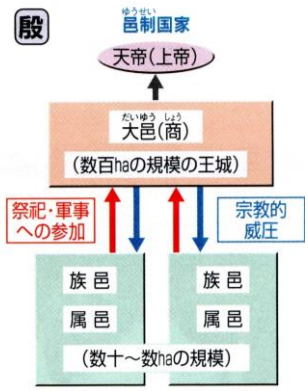
・現在確認できる中国最古の王朝であり、大邑商が他の邑を従える形で成立した。
・西域の玉器や南方のタカラガイが発見され、幅広い交流があったとされる。
・神権政治を行い、亀の甲羅や獣の骨を焼いてできるひびを見て占いをした。
　→これを記録したのが（　　）であり、（　　）の原型となった。
・武器や祭祀には、高い技術で作られた（　　）が使われた。

甲骨文字

甲骨文字が書かれた甲骨は竜骨と呼ばれ、漢方薬として売られていた。学者の劉顎と王懿栄のふたりによって、偶然発見された。

青銅器

この時代の青銅器は、現在でも再現できないほどの高い技術で作られているらしい。最大のものはなんと重さ 800 キロ！
また青銅器には、金文という文字も彫られた。



☆（　　）（前 11 世紀～前 770 年）

都…（　　）　※現在の西安の近く。

◆武王（在位前 11 世紀～前 1021 年ころ）

・中国の西部、黄河の支流である（　　）の流域（渭水盆地）におこった。
　→武王の時代に軍師の太公望の活躍などで殷を滅ぼして、王朝を開いた（殷周革命）。
・中国における至高の存在として、（　　）の概念が想定され始めた。
　→中国王朝の君主は天命を受けて支配者となる天子とも呼ばれた。

尾形光琳「太公望図」

太公望は釣りをしている時に、文王（武王の父）と出会った。このエピソードがあまりに有名なため、釣り好きの人に太公望とあだ名をつける場合がある。

＜周の支配体制＞

・周の王は、一族や家臣に（　　）を与えて（　　）とし土地を支配させた。
　→（　　）・（　　）・（　　）といった家臣にもそれぞれ土地が与えられた。
　→周の王に貢納をし、戦争の時は軍を率いて王のために戦うという義務があった。
　　※この支配体制を（　　）という。
・宗族と呼ばれる氏族を中心に結束し、（　　）という規範があった。
　→中国の封建制は、このような血縁による氏族関係の結びつきに特徴があった。